

**第11回** 現代世界の系統地理的考察

■■ 資源と産業編 ■■

## 世界の農業を見てみよう

監修・講師

菊地俊夫

学習のねらい

私たちの生活と密接に関連する“食”について考えるための基本的な知識を習得する。そのために、私たちの食生活と深く関わっている農業の世界的な分布パターンとその傾向をホイットルセイの農業地域区分から知ることが第1のねらいである。次に、世界的な農業の傾向から今日における課題を検討することが第2のねらいである。最後に、農業の世界的な傾向と関連づけながら日本の農業の現状について理解することが第3のねらいである。

今回のポイント

- 農業の地域区分
- 現代世界の農業の現状と課題
- 日本の農業

### ■■ 農業の地域区分 ■■

世界では自然条件や社会・経済条件などに基づいて、さまざまな形態の農業が発達している。ホイットルセイの農業地域区分によれば、農業の形態は伝統的農業と商業的農業、および企業的農業に大別できる。伝統的農業には、アフリカやラテンアメリカ、東南アジアなどで行われている焼畑農業や、乾燥地域や寒冷地域の放牧や遊牧、そしてアジアで行われているような多くの労働力を用いた稲作農業などがある。18世紀後半の産業革命後、都市の居住者の食料や、工業原料としての農産物など、販売を目的として生産を行う商業的農業が発達するようになった。商業的農業には地中海式農業や園芸農業、あるいは酪農などが含まれる。商業的農業がさらに進むと、大規模な資本を投入し、広大な土地を利用して生産を行うだけでなく、大型機械を用いて農業生産を大規模化・省力化する企業的農業が発達するようになる。企業的農業には企業的穀物・畑作農業や企業的牧畜、およびプランテーション農業が含まれる。

### ■■ 現代世界の農業の現状と課題 ■■

現代における世界の農業では、企業的農業によって生産コストを抑え、安い農産物を大量に生産することが主要な傾向になっている。このような企業的農業は特定の国によって行われ、とりわけアメリカ合衆国は食料の輸出大国として世界中の人びとの“食”に影響力を持っている。企業的農業によって特定の国に食料生産が集中することは大きな問題であり、それによって世界の食料の生産と供給が危ういものになる状況を生み出している。例えば、自然災害など

の影響で企業的農業の食料生産が減少したり、経済状況の変化や景気の変動によって食料価格が高騰したりすることで、食料の輸入国は大きな影響を受けることになる。他方、企業的農業は安く均一な農産物を大量に輸出するため、食料輸入国の農業を少なからず圧迫し、その土地や環境に適応した農業を衰退させてしまう要因にもなっている。企業的農業のもうひとつの問題点は経済的利潤を重視してきたことであり、経済的利潤を最大化するために化学肥料や農薬を多く投入してきた。そのような反省から、減農薬や低化学肥料の農業が21世紀以降に発達している。

### ■ ■ ■ 日本の農業 ■ ■ ■

世界農業の中心が特定の国を中心とした企業的なものになる中で、国土の狭い日本では、広い土地を必要とする大規模な企業的農業が発達することは難しい。しかし、大規模な農業とは異なる形で日本の農業は生き残りを図っている。ひとつは、小規模の有利性を生かした農業を各地で展開することである。具体的には、小規模な農家は農産物の生産に時間と手間をかけ、その土地や環境に適した良質の商品を消費者に提供している。また、消費者との距離が比較的密接であるため、消費者とのコミュニケーションを図ることで消費者のニーズに対応した農産物の生産と供給が可能になっている。例えば、生産者は消費者の多様化するニーズに応え、安全安心な農産物や新鮮で旬な農産物を消費者に提供している。さらに、土地や環境に適応した生産は農産物のブランド化を生み出し、そのような農産物のブランドが日本産農産物の価値をさらに高めている。日本産のリンゴやイチゴが海外市場、特にアジアの市場で人気を博しているのはその一例である。もうひとつの方法に関しては、一部の農家がIT技術を導入し、理想的な環境で農業生産を行うことで生き残りを図っている。このような方法はオランダを手本としながら、日本政府によって積極的に支援され推し進められている。